

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475201059
法人名	社会福祉法人 康陽会
事業所名	グループホーム やわらぎ
所在地 (電話番号)	仙台市宮城野区東仙台5丁目1-25 (電話) 022-292-2531
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 9月 20日

【情報提供票より】(19年 8月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 14 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	5.62

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	日額 700 円
敷金	有(80,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.25 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中嶋病院 歯科一番町
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族のグループホームへの信頼が厚く、運営として医療面での支援が手厚いホームである。同系列の協力病院での一人ひとりへの継続したリハビリ、マッサージなど、入居者の体力低下抑止に配慮し、日常の外出支援も意識して行っている。看護師の配置もあり、日常的に体調管理も行ない易く、状況、体調の変化にも早目に対応でき、家族への連絡を欠かさず家族は安心している。入居者の暮らしを見守り、支援し共に生活していく中で根幹となるケアプラン作成では、面会、面談の時に常に説明し相談して、思い、希望を取りいれている。昨今、職員の離職等があり管理者はホームの質を懸念しているが、現在居る職員と協働し、精一杯自らの信念を反映しようとしている。入居者の表情はとても明るい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>唯一改善課題となっていた市町村との関わりの中で、事業の受け入れについては認知症家族教室への講師依頼があり応じている。しかし日常的に市担当者とは行き来する関係は築けていないと管理者は話しており、今後の課題でもある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価票を渡し、一人ひとりが取り組み、それらをとりまとめ話し合いの上作成した。自己評価事項への評価を行う課程で、自分自身や事業所全体を評価者の目で見直し、改善点も見出され、その後のケアにも結びつけている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者家族の全員に運営推進会議への参加案内を送り、参加者も多い。運営推進会議でのホーム、行政、地域の支援者との交流は、家族にとって情報を共有でき、意見、要望を発信できる場ともなっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者家族がホームを訪れる機会は多く、行き易いと感じている。会議での意見交換に止まらず、むしろ日常の面会時を相談、意見発表の場とし、ホーム側はそれらを反映している。管理者、職員は「どの状態までホームでの生活が可能か」など家族の不安にも真剣に向き合い、工夫と能力を発揮しつつ、日常的な医療行為が必要となるまでは対応できるとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者個々が町内会に加入し、公園清掃や地域行事に参加してきた。協力病院の知名度と共に地域の皆さんには直ぐ受け入れられ、幼稚園児との交流慰問、小学校行事への参加もしている。体力、認知度の低下もあり、図書館での図書の借り出し等利用しにくくなった方もいるものの、地域での文化祭へ入居者手作りの切り絵を出展したり、できることへの支援も欠かさない。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は社会福祉法人康陽会と同一のものである。管理規定は平成18年度に見直し、地域との関わり等を表記しているにとどまっている。	○	管理者は研修を通じて地域密着型サービスとして理念の見直しの必要性を十分に理解しているが、法人母体との関連もあり、少し時間が必要だとしている。職員と話し合い早期に見直し、内外への表明に取り組んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆったり」「楽しく」「自分らしく」グループホーム独自の目標と方針を職員で共有し、それらを日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者全員が個々に町内会に加入している。近くの幼稚園児、小学校との交流や町内会行事への参加もし、地元の人々の訪問やボランティアでの支援もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に渡し、一人ひとりの評価を管理者がとりまとめて作成している。又、外部評価への職員の認識として、日頃の自分を振り返るきっかけとなっているとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年7月に発足し、2か月に1度開催している。入居者家族全員に案内し、出席者も多く、家族と地域、行政との交流の場ともなっている。議事録は家族全員に渡し、公表もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議の発足時出席してもらった。又、宮城野区の認知症家族への講師依頼も受諾し、今後もできる範囲で協力しようとしているが、話し合いや行き来する機会は多くない。	○	今後積極的に機会をとらえ、ホームの現状への理解や問題についてアプローチしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が入居者を訪問する機会は多く、その際はケア担当職員が日頃の様子を伝え、家族の意見等積極的に引き出そうと努力している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時での話し合いの他にも電話等で常に報告し、運営推進会議での出席者も多く、日常的に何でも話せる環境作りがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員個々の事情による離職はあるが、1、2か月の引き継ぎ期間を充てて対処し、入居者への影響を少なくするよう努めている。又、出産など一定の休止期間を経て、戻ってきた職員もおり、明るい展望もみられる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームは職員の資質向上のため、採用時研修、その後の研修を管理規定にも明記しており、積極的に研修受講の機会を提供している。研修終了後はレポートにまとめ全体会議で発表するなど内容を共有している。資格取得後の手当てもある。		
11	20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの開設時、他のグループホームと交流、勉強の機会もち、同系列施設での技術取得にも努めたが、現状実践的な交流が薄れている。	○	職員の離職等があり、又今後も見込まれているようで、同業者との交流、連携への取り組みは職員体制がもう少し落ち着いてからとしている。しかし職員は研修時での交流を経験してみて、同業者、他施設職員との交流の大切さは実感しているので、話し合いと工夫を重ね、同業者との交流を促進していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始月日を家族と相談し、入居者にとって馴染みの品を持ち込んでもらうなど環境を整え入居としている。入居後に帰りたくなった時は外泊支援をし、又落ち着くまで家族に面会などしてもらいながら本人本位に安心、穏やかなホームの暮らしとなるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1階、2階ユニット共に体力、認知度のレベルダウンはみられるようだが、開設時からの職員はヒヤリングの中で入居者からの学び、いたわりをいきいきと話してくれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアスタッフを担当制としたことで、入居者とも日常のケアを通し信頼関係を築いており、顔をよみとり、言葉をつなぎ合わせながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当の職員が作成したプランを基に、ケアマネジャーが家族と面談し、話し合い、意見を聞きながら介護計画を作成し渡している。家族からの介護計画に対する評価は高い。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活を共にすることで、入居者の思い、身体状況など職員同士が話し合い共有している。カンファレンスを実施して3か月に1度介護計画を見直し、体調等の変化、退院後など状況が変化した時は、実状に合った短期プラン作成を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療受診時の移送支援や盆、正月の外泊支援、また協力病院でのリハビリ、マッサージを行う際の送迎も行なっている。ショートステイ、通所支援に関しては空室なし、近くに同系列の通所施設があることなどから、対応していない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面では同系列の協力病院があり、救急医療体制、看護ステーションとも提携しており、家族は安心している。ほぼ全入居者が協力病院で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に入居者の重度化、終末期におけるホームの支援体制について説明し、指針も作成している。現在まで重度化したり、終末期を迎えた入居者はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者への接し方は、ゆったりと穏やかであり、常に人生の先輩、目上の方という意識を忘れず、いたわりあいながら生活していることは、職員とのヒヤリングでも感じとれた。しかし日常の記録物が入居者の目に触れやすい居間等にも散見された。	○	管理者も記録物の管理、日常的な収納について改善の必要を認識しており、改善に取り組もうとしている。記録物への時間的制約もあるとは思えるが、職員同士更なる話し合いと工夫を重ね、早期に対応できるように期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせ、希望に添った自由な暮らしへの支援を行っている。起床については一日の始まりという意識をもってもらうため、全員に声がけしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは職員が入居者に聞きながら決めている。誕生日、祝い事には特別メニューを提供し、喜んでもらえるように工夫している。入居者は盛り付け、下げ膳など役割をもって動いており、職員は各テーブルでさりげなく支援しながら、一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のそれぞれの生活スタイルに添って、入浴時間帯も本人の希望を聞きながら支援している。毎日入浴や夕食後などさまざまであり、入りたがらない方には、声かけ、入浴剤を使用するなど工夫し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADL(日常生活動作)が低下しできることが少なくなってきたが、生活歴に添って工夫し支援に努めている。新聞を週刊誌に替えるなどはその一例である。切り絵、編物、ぬりえ、書などできる方への支援をすすめ、東仙台文化祭へ出展した入居者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	道路を隔てた向い側に公園があり、天気の良い日は散歩を促がし、協力病院へのリハビリ、マッサージにも車で出掛け、個別外出の希望にも応じている。遠出できない車いすの方も玄関わきのスペースで外気浴をしている様子も見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見回りなどをしながら、日中鍵はかけず自由に入出入りできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「消防計画」を作成し、夜間想定訓練も含め、年2回の避難訓練を実施している。避難誘導時の入居者の時間のかかり方や様子などの把握もし、また町内会の防災会議にも出席し、緊急時での近隣の協力についてもお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりについて、食事、水分の摂取量を記録し、不足のみられる方については、個別に好みの補食も提供している。浴室に体重計を置き、月に1度計量チェックし、食事バランス等も栄養士からの助言をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの造りで木のぬくもりが感じとれ、広い廊下、明るくゆったりとした共有空間である。浴室、トイレ、台所などの調度品も入居者に馴染みある家庭的なものである。所々に設えられた飾り棚には文化祭に出品した切り絵、手芸品が程よく飾りつけてあり、入居者が穏やかで、安心して暮らせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室にはトイレ、洗面台も設えてあり、プライバシーにも充分配慮されている。それぞれに馴染んだ家具、日用品を持ち込み、以前の生活を基にした居室への配置にも心がけている。		